

校長室だより 自然学校での学び 6月3日

5年生が5月27日から31日までの4泊5日で自然学校に行きました。

自然学校は、兵庫県が1991年公立の全小学校で実施し始めました。学習の場を教室から自然の中へ移し、人や自然、地域社会と触れ合い、体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、命を大切にする心、感動する心、共に生きる心を育むなど「生きる力」を育成することを目的としています。



コロナ禍で体験活動が制限されていたこともあり、体験活動を通して培ってきた主体性や人と関わる力が

低くなってきたとも言われています。そこで昨年度より、4泊5日の全日程の自然学校が再開されました。

丹波市の5年生は、山と海の体験を主に活動として取り入れています。春日地域の5年生と一緒に活動し、地域の横の連携を行い、スムーズに中学校生活に入れるようにすることもねらいのひとつです。

今年度は、山の体験を南但馬自然の家を利用しました。山では、隠れ家づくり、野外炊事体験をしました。海の体験では、円山川公苑でカッター、カヌー、カヤック、竹野スノーケルセンターで磯観察やキャンドルづくり、最終日はコウノトリの郷を見学しました。

子どもたちは、普段一緒に生活しているクラスの友達と集団生活することで、友達のいいところを見つけたり、やさしく声をかけたりすることができたことが一つ目の成長です。

また、同じ春日地域の5年生の友達に自分から声をかけて仲を深めていました。

他にも、グループで体験することで、お互いに助け合う心や達成感を味わっていました。その一つ一つの成功体験が自信につながると感じました。

便利な世の中で育った子どもたちにとっては、自分のことは自分でする、互いに気づいたことは声をかけあい協力することが意外と難しいのですが、こういった集団生活の中では極めて重要な学びがあると感じました。



体験活動はこどもの新しい可能性を切り拓くと考え、自然学校やその他の体験活動を教育課程に位置付け子どもたちの成長を支えていきたいです。また、体験活動を通して、子どもたちの「自立」に向け、自己認識や自尊感情を高め、自分自身のこれからの在り方や生き方を考えるきっかけになるのだと思います。